

Innovation



CIOメッセージ

イノベーションは
企業価値を飛躍的に
高めるための起爆剤

執行役常務
Chief Innovation Officer
Chief Technology Officer

ラリー・マイクスナー

イノベーションは、国家だけでなく、企業にとっても常に経済成長の重要な原動力となっています。しかし、現実的には、私たちMCHCグループはどのように既存の事業を超え、差異化を図ればよいのでしょうか。市場の変化に即応し、時代遅れの手法から脱却するにはどうすればよいのでしょうか。パンデミック後の市場の変化やカーボンニュートラルな社会の実現という新たな時代に向けて、こうした問いが私たちを鼓舞するのです。

イノベーションの種となる研究開発

研究開発は、MCHCグループのイノベーションの中核を成すもので、ポートフォリオ改革に貢献する新規事業の創出を促進しています(P.52参照)。例えば、温室効果ガスの削減は負担ではなく、大きなビジネスチャンスと捉えて、次世代の構造材料、電池材料、熱を利用する材料を生み出すための研究開発力を強化すると同時に、素材の再利用やバイオ由来ポリマーなどの新分野を開拓しています。ヘルスケア分野では、Muse細胞等の新規医薬品の開発を進める一方で、患者のアンメット・メディカル・ニーズを満たす、アラウンドピルといったデジタルソリューションも重視しています。また、2020年に田辺三菱製薬を完全子会社化、機能材料事業とヘルスケア事業間でシナジー効果のある研究開発を積極的に推進しています(P.54参照)。

未来を創造: デジタルトランスフォーメーション(DX)とコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)活動

MCHCグループ全体で、イノベーションによる事業への効果を最大化するためには、生産性の高い新たな探求を促す能力と思考力を継続的に強化する必要があります。そのため、私たちは、DX、CVC活動、そして戦略的な新規事業開発を通じて、このイノベーション基盤の構築を支援しています。

デジタルトランスフォーメーショングループ(P.53参照)は、デジタル専門知識の中核を提供し、MCHCグループ全体で価値の高いプロジェクトに取り組んでいます。さらに、将来の成功に不可欠な「デジタルな発想」を育むため、数千人のMCHCグループ従業員が利用する教育・研修プログラムを提供し(P.50参照)、また事業会社との間で交流人事や共同作業などを多数行っています。

従来の考え方やリスク回避にとらわれず、規模や専門知識といったMCHCグループの優位性を活かすためには、さらに世界的なイノベーションの活用が必要です。このため、2018年、シリコンバレーにDiamond Edge Ventures, Inc.を設立し、CVC活動を開始しました(P.55参照)。最初の投資先5社を皮切りに、MCHCグループ全体の成長分野における戦略的な協業を推進しています。また、食品業界のバリューチェーンにおける顧客向けのデータを活用したソリューションなど、企業間の強みを活かした新しいビジネスモデルの開発にも取り組んでいます。

グローバルな競争に打ち勝つために

世界的なイノベーション創出の競争に打ち勝つために、私たちは客観的な基準とそれに基づく評価を重視しています(MOT指標、P.24参照)。自身の強みと弱みを絶えず精査することによってのみ世界のイノベーションを牽引する存在へと成長していけるのです。

私たちは、新型コロナウイルスのパンデミック、デジタル技術や生物科学の変革的進歩、地政学的大変動などにより、劇的な社会変化の渦中にいます。そういう時代には、ある産業は消滅し、新たな産業が出現することがあります。こうした環境では、臆病さは許されません。今後数年間でポートフォリオや会社自体を改革していく中で、イノベーションは株主や社会に対する企業価値を飛躍的に高める起爆剤となるでしょう。